

受賞者のその後の取組（平成 27 年現在）

平成18年度 国務大臣 内閣府 特命担当大臣賞 受賞	受賞者名
	川崎・ごみを考える市民連絡会 代表 飯田 和子
	所在地
	神奈川県川崎市
1. 活動継続 なし	川崎・ごみを考える市民連絡会は平成 24 年 7 月に発展的解消をした。
2. 活動の広がり あり	<p>解散後、連絡会を構成する各団体は、それぞれ活動を継続し、さらに他の組織が形成されたりして、また種から芽が出ているといった状況で活動の広がりを見せている。</p> <p>生ごみリサイクルにおいては、「ごみ連」で構築した宮前区の農家ルート等の 3 つのルートが活動を継続する他、「ごみ連」が開催していた「生ごみリサイクル交流会」を継承する形で、平成 24 年 11 月に川崎市と市民の協働事業として「かわさき生ごみリサイクル交流会」実行委員会が結成され、毎年交流会が開催されている。</p> <p>また、川崎市生ごみリサイクルリーダー制度や区役所における生ごみリサイクル相談会開催など行政の施策も進展している。さらに「ダンボールコンポスト」による生ごみリサイクルを実践するグループの活動も大きな成果をあげており、行政による生ごみ回収については、実現されていないが、市民家庭レベルの「小さな循環」は進んでいる。</p>
3. 活動の進化 あり	<p>[本表彰後の受賞履歴]</p> <ul style="list-style-type: none">・平成 24 年 飯田和子 環境省地域環境活動功労賞（細野豪志環境大臣より）・平成 25 年 飯田和子 川崎市社会功労賞（阿部孝夫市長より）
4. 今後の計画	特になし

(次頁に表彰概要掲載)

【表彰概要】

概 要	
受賞者名	川崎・ごみを考える市民連絡会 代表 飯田 和子
所在地	神奈川県川崎市
活動実績	
<p>・1992年5月に設立され、川崎市内のごみに関わる市民団体、生活協同組合など20団体および個人の会員から構成されている。</p> <p>・主な活動内容は以下の通り。</p> <p>①生ごみリサイクルの先駆的活動</p> <p>1999年に、川崎市麻生区、多摩区の家などから排出される生ごみを横浜市青葉区の農家で堆肥化し、それを用いて栽培された野菜を購入する仕組みを構築し、現在まで継続している。2005年には、宮前区の農家ルートや、麻生区の市民と一緒に堆肥化を行う「あさお生きごみ隊」を立ち上げた。</p> <p>②普及啓発活動</p> <p>ニュースレター「ごみ連だより」を1993年から定期的に発行。その時期にふさわしいテーマで講演会、フォーラム、学習会を開催。メンバーが市内のスーパー等を調査し、その容器包装削減の取り組みなどを紹介する冊子「私たちが変わればお店が変わる」（1994年/1997年/2001年）を発行。</p> <p>③市民プランの策定など</p> <p>ごみ減量には、行政の施策の役割が大きいことから、それを待つのではなく自ら提案することが重要と考え、次の活動を行ってきた。</p> <p>「川崎発ごみを出さない燃やさない市民プラン」（1999年）</p> <p>循環型社会の構築へ向けて、単に市に取り組みを要望するのではなく、市民自らが動くことも重視した内容となっており、全国のごみ減量・リサイクル市民団体の活動活性化に大きく貢献した。</p> <p>「生ごみ・落ち葉堆肥化のすすめ」（2000年）</p> <p>生ごみ・落ち葉のリサイクルに関して、市民が取り組める実践例を紹介した。</p> <p>「地域が元気になる！生ごみリサイクル市民プラン」（2005年）</p> <p>生ごみのリサイクルに関して、市民からの提案を行ったものであり、このプランを踏まえながら、川崎市でも「(仮称)かわさき生ごみリサイクルプラン」の策定作業が進められた。</p>	